

PBL I-12 バナナ・テキスタイル入門—素材研究 I

担当教員 柏木 弘 浅野 泰弘

配当年次 全学年

単位区分 自由

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 1.0

準備事項

備考 全学科対象・履修制限有（初回授業で選考）

【授業のねらい】

1. バナナ・テキスタイル・プロジェクトを理解するための演習を行う基本講座。2. バナナ繊維を中心に未利用繊維の素材開発の方法について学ぶ。実際にバナナの原木より繊維の抽出方法を体験する。繊維の開織、紡績または伝統的な糸継ぎ・糸撚りによる糸作りを経て布になる工程を理解する。さらに不織布、ボード加工などへ展開する。3. 実習と専門家によるレクチャーを通して環境問題とデザインに関する考えを深めていく。原料素材とその背景、文化・環境の関係についてバナナ繊維を通してみていく。

【授業の展開計画】

週	授業項目	内容
1	オリエンテーション	バナナ・テキスタイルと環境問題について、授業の進め方説明
2	講義（特別講義）	繊維素材一般について
3	講義	バナナ素材の背景について
4	講義（特別講義）	未利用繊維の素材開発方法
5	演習 1	バナナ繊維の抽出方法 1
6	演習 2	バナナ繊維の抽出方法 2
7	講義（特別講義）	地球環境問題とデザインについて
8	演習 3	バナナ繊維の開織・紡績・糸継ぎ
9	演習 4	バナナ繊維の開織・紡績・不織布
10	演習 5	バナナ繊維の開織・不織布・ボード加工
11	講義（特別講義）	紙漉技法の伝統と現在 未利用繊維からボード加工
12	演習 6	バナナ繊維で紙漉き
13	演習 7	バナナ・未利用繊維からの新たな表層制作
14	演習 8	バナナ・未利用繊維からの新たな表層制作
15	プレゼンテーション	素材研究発表

【履修上の注意事項】

環境問題とデザインとの関わりについて意欲的に学ぶ学生の参加を望みます

【評価方法】

出席と提出作品によって評価する

【テキスト】

【参考文献】

PBL I -14 桐で家具を作る

担当教員 富樫 克彦 田淵 諭

配当年次 2年・3年・4年

単位区分 自由

開講時期 後期

授業形態 実習

単位数 1.0

準備事項

備考 全学科対象 履修制限20名 面接により決定

【授業のねらい】

日本の伝統の桐の文化と伝統を踏まえ、日本を代表する会津桐工房、(株)有紀の商品開発を通して、デザイン開発と地域活性化を図る

【授業の展開計画】

週	授業の内容
1	ガイダンス：プロジェクト説明・スケジュール確認
2	オリエンテーション：クライアント（社長・担当者）によるオリエンテーション
3	事例研究：桐の家具の歴史を学ぶ
4	ブレインストーミング：様々な視点からディスカッションをし問題点を共有する
5	桐家具職人特別講義
6	アイデア提案その1：アイデア発表・クリティック・ディスカッション
7	アイデア提案その2：前週を受けてアイデアを発表・ディスカッション
8	中間発表：クライアントに企画発表・軌道修正
9	アイデア提案その3：アイデア発表・ディスカッション
10	制作1：デザイン案提出・ミーティング
11	制作2：デザイン案提出・ミーティング
12	制作3：デザイン案提出・ミーティング
13	プレ・プレゼンテーション：提出物と口述のチェック
14	プレゼンテーション準備
15	プレゼンテーション：最終成果物のプレゼンテーション

【履修上の注意事項】

デザインの実技のため、木工の実技の基礎が出来ていることを必修とする

【評価方法】

出席と作品を評価

【テキスト】

特になし

【参考文献】

特になし

PBL I-17 デザインガイドラインー I

担当教員 山本 博子 杉本 悟

配当年次 3年・4年

単位区分 自由

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 1.0

準備事項

備考 履修制限有（GD20名、他学科10名）希望者多数は特定の学科に片寄らないように選考。

【授業のねらい】

八王子市との官学共同研究・西放射線ユーロード屋外広告物デザイン基準案の作成に取り組む。講義や演習を通じて景観や屋外広告物、環境色彩についての理解を深める。また、フィールドワークを中心にした取材により、対象地域の特性を理解した上で、環境色彩調査を実施し、デザイン基準案作成を行う。

【授業の展開計画】

週 授業項目：内容

- 1 オリエンテーション及び課題説明：プロジェクトの主旨、官学共同研究の意味について
- 2 講義：「景観とは、環境色彩とは」
- 3 特別講義（講師：八王子市都市計画室）：「八王子市・街の歴史、本プロジェクトについて」
- 4 演習 現地事前調査：文献での資料収集／写真撮影による事前取材
- 5 演習 事前調査報告準備：問題点の抽出／取材写真によるマップ作成
- 6 演習 事前調査報告（八王子市都市計画室と共同）：事前調査結果からの問題点や今後の調査について検討
- 7 講義 調査方法について(1)：調査方法とプロセスについて
- 8 実習 調査方法について(2)：環境色彩調査シート作成／調査地域写真撮影
- 9 実習 現地調査（八王子市都市計画室と共同）：環境色彩調査
- 10 実習 調査結果の整理(1)：環境色彩調査結果の集計／合成写真作成
- 11 実習 調査結果の整理(2)：カラーパレットの作成／合成写真作成
- 12 演習 調査結果の分析：環境色彩調査カラーパレットの読み取り
- 13 演習 デザイン基準案の作成(1)：屋外広告物デザイン基準案要件検討／シミュレーション図作成
- 14 演習 デザイン基準案の作成(2)：屋外広告物デザイン基準案の整理／シミュレーション図まとめ
- 15 まとめ：屋外広告物デザイン基準案の整理、レポート提出

【履修上の注意事項】

現地調査については、開講曜日を振り替えて実施する場合がある。

【評価方法】

出席（調査研究への参加状況）及び成果物（取り組みに対してのレポート）

【テキスト】

なし

【参考文献】

なし

PBL I-18 デザインガイドラインーⅡ

担当教員 山本 博子 杉本 悟

配当年次 3年・4年

単位区分 自由

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 1.0

準備事項

備考 履修制限有（GD20名、他学科10名）希望者多数は特定の学科に片寄らないように選考。

【授業のねらい】

八王子市との官学共同研究・西放射線ユーロード屋外広告物デザイン基準案の作成に取り組む。講義や演習を通じて景観や屋外広告物、環境色彩についての理解を深める。フィールドワークを中心とした取材により、対象地域の特性を理解した上で、屋外広告物の色彩、設置方法、情報内容等の調査を実施する。前期授業での調査結果も踏まえてデザイン基準案策定を行う。

【授業の展開計画】

週	授業項目：内容
1	オリエンテーション及び課題説明：プロジェクトの主旨、官学共同研究の意味について
2	講義：「都市景観における屋外広告物とその設置方法について」
3	特別講義（講師：八王子市都市計画室）：「八王子市・街の歴史、本プロジェクトについて」
4	演習 現地事前調査：文献での資料収集／写真撮影による事前取材
5	演習 事前調査報告準備：問題点の抽出／取材写真のまとめ
6	演習 事前調査報告（八王子市都市計画室と共同）：事前調査結果からの問題点や今後の調査について検討
7	講義 調査方法について(1)：調査方法とプロセスについて
8	実習 調査方法について(2)：屋外広告物調査シート作成／屋外広告物調査用写真撮影
9	実習 現地調査（八王子市都市計画室と共同）：環境色彩調査
10	実習 調査結果の整理：屋外広告物分類・集計／屋外広告物図版作成
11	演習 調査結果の分析：屋外広告物調査結果の読み取り
12	演習 デザイン基準案の作成(1)：屋外広告物デザイン基準案要件検討／シミュレーション図作成
13	演習 デザイン基準案の作成(2)：屋外広告物デザイン基準案の整理／シミュレーション図まとめ
14	まとめ：屋外広告物デザイン基準案の整理、レポート提出

【履修上の注意事項】

現地調査については、開講曜日を振り替えて実施する場合がある。

【評価方法】

出席（調査研究への参加状況）及び成果物（取り組みに対してのレポート）

【テキスト】

なし

【参考文献】

なし

PBL I -19 スポーツ公園サインシステム計画

担当教員 小泉 雅子

配当年次 3年・4年

単位区分 自由

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 1.0

準備事項

備考 履修制限有 30名

【授業のねらい】

八王子市との官学共同研究として、(仮称)戸吹総合スポーツ公園のサインシステム計画と環境計画の中でのモニュメント類の計画について提案する。計画全体については受講生全員で共有しながら、サインシステム計画とモニュメント類の計画にグループを分けて取り組む。スポーツ公園の立地や施設利用者の特性を理解し、具体的な提案を行う。

【授業の展開計画】

週 授業項目：内容

- 1 講義 オリエンテーション及び課題説明：プロジェクトの主旨、官学共同研究の意味の説明
- 2 講義 サインシステム計画とは
- 3 演習 事前調査：資料から現地の状況等を把握する
- 4 実習 現地調査：現地説明、写真撮影等
- 5 演習 調査結果の整理：調査結果の整理
- 6 演習 サインシステムデザイン：サインシステム構築と配置計画
- 7 実習 サインシステムデザイン：サイン本体デザイン
- 8 実習 サインシステムデザイン：サイン本体デザイン
- 9 実習 サインシステムデザイン：サイン表示面デザイン
- 10 実習 サインシステムデザイン：サイン表示面デザイン
- 11 演習 サインシステムデザイン：サイン表示面デザイン提案資料のまとめ
- 12 実習 モニュメントデザイン：環境計画、モニュメント類の計画
- 13 実習 モニュメントデザイン：環境計画、モニュメント類の計画
- 14 実習 モニュメントデザイン：環境計画、モニュメント類の計画
- 15 演習 まとめ：提案資料のまとめ

【履修上の注意事項】

現地調査については、開講曜日を振り替えて実施する場合は有る。

【評価方法】

出席(研究への参加状況)及び成果物(計画・提案)

【テキスト】

なし

【参考文献】

なし

PBL I -20 バナナ・テキスタイル-地球環境とデザイン

担当教員 浅野 泰弘

配当年次 全学年

単位区分 自由

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 1.0

準備事項

備考

【授業のねらい】

バナナの未利用繊維を有効利用することを通じて、地球環境とこれからのデザインについて考える。

【授業の展開計画】

週 授業項目 内容

- 1 オリエンテーション 講師自己紹介（デザインの考え方） 講座の概略説明。講師のこれからのデザインとは何かの考え方について。
- 2 地球とデザイン /NASA、イームズ、バナナ 昨年度までのバナナテキスタイル成果説明。地球を外側から見る試み。アポロ計画。パワーズオブテン。宇宙から地球を見る視点を持つこと。
- 3 世界とバナナ /バナナを通じて世界を知ろう/世界地図（作品課題1） 宇宙から見ると、地球は一つのシステムです。バナナ生産国調査。
- 4 地球環境とデザイン 江戸のリサイクル事情調査 江戸時代研究。本来、日本はカーボンニュートラルな国だった。
- 5 地球環境とデザイン 江戸のリサイクル事情調査 江戸時代に自然におこなわれていた生活。江戸時代に学ぶことは多い。
- 6 プロダクトデザインとファイバーについて/1（作品課題2） 最先端素材としてのファイバー研究
- 7 プロダクトデザインとファイバーについて/2 最先端素材としてのファイバー（DNAから宇宙まで、世界はセンイで出来ている）
- 8 バックミンスター・フラーの考え方/1（45年前に宇宙船地球号の思想） 『デザイン』という行為を再定義すると、単に色や形を作るものではなく『それを通じてひとつのものの考え方や社会のシステムを提示すること』
- 9 バックミンスター・フラーの考え方/2（最小のエネルギーで最大の効果を上げる方法）（作品課題3） ジオデシックドーム、テンセグリティ。模型製作。
- 10 パパネック的思想（生きのびるためのデザイン）（地産地消の考え方） デザイナーとは、自分の制作行為を通じて、価値尺度や原理といった「モノを見る物差し」を提示する人
- 11 バナナ繊維の利用方法のアイデア/1 環境とデザインが密接にかかわっていることを理解。デザイン対象である素材を知らなければせっかくの素材を殺すことになってしまう。
- 12 バナナ繊維の利用方法のアイデア/2（作品課題4） 今までの我々が持っていた等身大の物差しや人間中心の尺度とは全然違う、巨大な尺度や微細な物差しがバナナの未利用資源の有効利用にかかっている。
- 13 作品製作/1 作品制作
- 14 作品製作/2 作品制作
- 15 最終プレゼン 学生が自分の作品を説明する。講師がそれについてコメントして、評価する。

【履修上の注意事項】

地球環境に興味があり、自ら積極的に参加する意欲をもって臨んでほしい。

【評価方法】

『デザインする』ということは単に美しいデザインを製作することではない。新しくきれいなものがデザインであるという一般的なイメージの間違いを指摘し、環境問題に対してのデザインの新しい方向性を評価する。出席と課題提出。

【テキスト】

特になし

【参考文献】

授業の中で随時指示する

PBL I -21 コンテンツマネジメントシステムによるウェブデザイン

担当教員 山辺 真幸

配当年次 全学年

単位区分 自由

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 1.0

準備事項

備考 履修制限有（高学年優先履修）

【授業のねらい】

一般の人々の情報発信参加の可能性を広げた「ブログ」は、「クチコミ」をメディア化するという副産物を生んだ。新聞はマスメディアとしての効用だけでなく、壁新聞にみられるような、普遍的な小さなコミュニケーションを促す機能ももっている。これら新旧2つのメディアを合体させることにより、新しい情報流をつくりだすことはできないだろうか？ ブログ作成アプリケーションMovableType4.0のプラグインソフトである「新聞ブログ」を用いて、ウェブと紙の両方で閲覧可能な「新聞」づくりに挑戦する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス CMSによるウェブデザインの変容
2	活動とメディア CMSとしての「新聞ブログ」の応用
3	活動とメディア 私たちの活動とメディア 1
4	活動とメディア 私たちの活動とメディア 2
5	コンテンツ制作 新聞ブログにおける取材とは 1
6	コンテンツ制作 新聞ブログにおける取材とは 2
7	コンテンツ制作 新聞ブログにおける記事作成とは 1
8	コンテンツ制作 新聞ブログにおける記事作成とは 2
9	メディア構築 CMSの仕組みと新聞ブログ 1
10	メディア構築 CMSの仕組みと新聞ブログ 2
11	メディア構築 CMSの仕組みと新聞ブログ 3
12	公開と反応 ウェブの公開とユーザやオーディエンスの反応 1
13	公開と反応 ウェブの公開とユーザやオーディエンスの反応 2
14	発表会
15	まとめ

【履修上の注意事項】

インターネット体験者であることが望ましい。ブログ使用の経験があればなお良い。

【評価方法】

出席、授業内ディスカッションへの貢献、制作・公開・評価プロセス、制作物を均等に評価する

【テキスト】

随時配布

【参考文献】

随時配布

PBL II-5 バナナ・テキスタイル 環境教育の実践

担当教員 端山 聡子

配当年次 全学年

単位区分 自由

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 2.0

準備事項

備考 履修制限有（テキスタイルデザイン学科20名、他学科20名）

【授業のねらい】

子供たちにバナナを通してもの作りのすばらしさを伝え、環境問題へ目を向けてもらうためのワークショップを学生が企画実施することを目指す。小学生対象のワークショップの組み立てに学生が積極的に参画し、企画・プレゼンテーション・コミュニケーション能力を鍛える。

【授業の展開計画】

週	授業項目	内容
1	オリエンテーション	授業概要説明、バナナテキスタイルプロジェクトについて
2	芸術普及概論 1	芸術普及教育の現在
3	特別講義	未利用資源の有効利用
4	芸術普及概論 2	生涯学習の歴史
5	バナナ繊維加工 1	バナナ繊維抽出
6	芸術普及概論 3	芸術普及の担い手
7	バナナ繊維加工 2	バナナ繊維の開織・不織布・ボード加工
8	特別講義	バスケットリー ワークショップ
9	芸術普及概論 4	子どもたちのための芸術普及
10	バナナ繊維加工 3	バナナ繊維で紙漉
11	ワークショップ実施計画 1	プランニング開始
12	ワークショップ実施計画 2	プランニング
13	ワークショップ実施計画 3	プランニング
14	ワークショップ実施準備	ワークショップ実施の準備
15	ワークショップの実施	実施
16	バナナワークショップの企画・立案	グループに分かれて企画・立案開始
17	プランニング	検討続行
18	特別講義	自然を活かし学ぶデザイン
19	プランニング	検討続行
20	プラン発表	発表
21	実施に向けて準備開始	グループごと作業開始
22	作業	
23	特別講義	素材と普及教育
24	作業	
25	作業	
26	作業	
27	作業	
28	ワークショップの実施	
29	実施報告書作成	
30	実施報告とまとめ	

【履修上の注意事項】

環境問題と芸術普及教育との関わりについて意欲的に学ぶ学生の参加を望みます。

【評価方法】

出席とワークショップの実施結果によって評価する。

【テキスト】

【参考文献】

PBL II-9 文化演出の現在 I (展覧会)

担当教員 海老塚 耕一 上田 雄三

配当年次 2年・3年

単位区分 自由

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

準備事項

備考 全学科対象 履修制限30名

【授業のねらい】

展覧会の構造を探ることにより、現代における展覧会の意味と様々な展覧会の未来について考察し、実際に自分達の展覧会を企画し実施していく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	展覧会の構造I 展覧会の理念と基礎的構造
2	展覧会の構造II 展覧会の歴史的考察
3	展覧会の構造III 現代における展覧会の意義
4	どのような展覧会を企画するかI 展覧会企画にむけてのディスカッションI
5	どのような展覧会を企画するかII 展覧会企画にむけてのディスカッションII
6	どのような展覧会を企画するかIII 展覧会企画の決定
7	展覧会の構築I プランニング・制作I
8	展覧会の構築II プランニング・制作II
9	展覧会の構築III 展示構成の実践的プランニングI
10	展覧会の構築IV 展示構成の実践的プランニングII
11	展覧会の構築V 展覧会構成の決定
12	展覧会演習I (全学オープン) 展覧会の実施 および 講評
13	展覧会演習II 展覧会の実施と総括
14	
15	

【履修上の注意事項】

本講座は単に展覧会を実施したり、あるいは単に展覧会について学習することを目的とするものではない。理論・制作・実施といった様々な諸力が如何に「展覧会」というもの構成するのかということ、実践に基づきつつ考察することが主旨である。従って、展覧会についての理論的かつ実践的な関心と努力が、履修者には求められる。

【評価方法】

授業参加の態度と展覧会の成果を纏めた期末レポートによる

【テキスト】

必要に応じて講義中に指示する

【参考文献】

特になし

PBLⅡ-10 プレゼンテーション演習

担当教員 上田 雄三

配当年次 2年・3年

単位区分 自由

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

準備事項

備考 全学科対象 履修制限30名

【授業のねらい】

作品の制作において、しばしば制作の実践のみで自足してしまう場合が多いが、作品を公に「発表する」ということは、単に作品をつくることだけでは不十分である。作品が公共性をもつに至る第一歩として、自らがつくりだした作品の意義を他者に説明し、伝達することが肝要であり、それがすなわち「プレゼンテーション」という技術である。この科目では、プレゼンテーションの能力を養うことを主眼とし、その方法論を受講者相互で発見することを目的とする。

【授業の展開計画】

1	プレゼンテーションの在り方 I	情報の整理とアウトプット
2	プレゼンテーションの在り方 II	企画書の作成について
3	プレゼンテーションの在り方 III	訴求力のあるプレゼンテーションについて
4	自分を記述すること I “自己情報のリストアップと整理	効果的なプレゼンテーションについての検討”
5	自分を記述すること II “自己情報のリストアップと整理	効果的なプレゼンテーションについての検討”
6	自分を記述すること III “自己情報のリストアップと整理	効果的なプレゼンテーションについての検討”
7	自分の作品の理解 I “自己情報のリストアップと整理	効果的なプレゼンテーションについての検討”
8	自分の作品の理解 II “自己情報のリストアップと整理	効果的なプレゼンテーションについての検討”
9	ポートフォリオとは	
10	ポートフォリオ制作 I	自分の作品をまとめ、ポートフォリオを作成する
11	ポートフォリオ制作 II	自分の作品をまとめ、ポートフォリオを作成する
12	プレゼンテーション I	プレゼンテーションの実践
13	プレゼンテーション II	プレゼンテーションの実践
14	まとめ	成果物の提出

【履修上の注意事項】

基本的な講義や指針の提示は担当教員が行なうが、原則的には受講者の能動的なディスカッションや共同作業によって進められる。従って、主体的に思考ができるに足る日々の研鑽が、受講生には求められる。

【評価方法】

平常出席点、レポート、作品、ポートフォリオなどの成果物

【テキスト】

授業内で指示

【参考文献】

特になし

PBL II-11 1970年以降の現代美術

担当教員 安斎 重男 (客員教授) 小泉 俊己

配当年次 3年・4年

単位区分 自由

準備事項

備考 有

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

平成21年度秋に本学美術館ならびに図書館、学内各所(予定・調整中)にて開催される「安斎重男一作家の顔」展(仮称)に対して、氏の活動歴、作品、資料等をもとに、氏自身から直接講義を受け、日本を含む世界的な美術潮流を学びながら、同時に展覧会の設計、および準備、運営に携わることで、受講生それぞれの立場に応じた、学習効果を期待する。また、各回の授業に他の担当教員がオムニバス式に参加し、横断型の授業形態とする。

【授業の展開計画】

週	授業の内容	週	授業の内容
1	ガイダンス	16	展覧会設計Ⅳ
2	東京ビエンナーレ'70「人間と物質」展	17	展覧会設計Ⅴ
3	展覧会設計Ⅰ	18	展覧会運営の実践Ⅰ
4	1970年代の日本現代美術	19	展覧会運営の実践Ⅱ
5	1970年代の海外の美術状況	20	展覧会運営の実践Ⅲ
6	特別講義(学外ゲスト)	21	1980年代の海外の美術状況
7	1980年代の日本現代美術	22	展覧会レポート(まとめ・報告書)
8	1980年代の海外の美術状況	23	データ構築について
9	展覧会設計Ⅱ	24	特別講義(学外ゲスト)
10	1990年代の日本現代美術	25	日本現代美術の今
11	1990年代の海外の美術状況	26	作家研究
12	国際展と日本人作家	27	まとめ
13	2000年代の日本現代美術	28	
14	2000年代の海外の美術状況	29	
15	展覧会設計Ⅲ	30	

【履修上の注意事項】

展覧会開催にあたり学内はもとより、各方面との調整、折衝、共同作業等によって、より実践的な教育効果が期待される反面、責任も発生する。このことを十分理解した上で履修すること。

【評価方法】

出席、レポートおよび総合評価

【テキスト】

特になし

【参考文献】

特になし

PBLⅡ-12 バナナ・テキスタイル：素材と製作技法

担当教員 深津 裕子

配当年次 2年・3年・4年

単位区分 自由

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 2.0

準備事項

備考 履修制限あり（40名 初回授業で選考）

【授業のねらい】

バナナ繊維と未利用繊維などに関する知識と特質を理論的に理解した上で繊維の抽出、糸づくり、「編む」「組む」「織る」「縫う」などの基礎的技法を習得する。産地や工房などの見学も視野に入れ、地域に根ざす素材と技法の民族・文化・社会的背景を理解することを通じて、人類が天然繊維をどのように活用してきたのかを考える。最終的には講義で得た素材、製作技法に関する知識と技をもとに作品を制作し展示会で発表し、社会に対してメッセージを発信する。

【授業の展開計画】

週 授業項目 内容

- 1 オリエンテーション 授業概要とバナナ・テキスタイル・プロジェクトについて概説する。
- 2 講義：人と布の歴史 人類が経験してきた布づくりと繊維素材の開発の変遷について概説する。
- 3 演習：バナナ繊維の抽出 バナナ繊維を抽出して繊維素材を得る。
- 4 講義：フィリピンのパイナップル、バナナ繊維 海外における未利用繊維の活用事例と現状を把握する。
- 5 演習：バナナ繊維加工1：糸を績む バナナ繊維を機結びすることにより糸を作る。
- 6 講義：沖縄の芭蕉 日本の工芸技術における素材と制作技法を把握する。
- 7 演習：バナナ繊維加工2：開織 バナナ繊維の開織演習と素材活用の可能性を考える。
- 8 演習：バナナ繊維加工3：糸を紡ぐ 開織したバナナ繊維を紡ぐことにより糸を作る。
- 9 講義：不織布とは何か 樹皮などを利用した布づくりやフェルトについて学ぶ。
- 10 演習：バナナ繊維加工4 バナナ繊維からの不織布やボードなどを作る。
- 11 講義：静岡県掛川地方の葛繊維 日本の工芸技術の変遷と用途について葛繊維を事例として考える。
- 12 講義：色と染料 天然染料による染色理論と方法について学ぶ。
- 13 演習：バナナ繊維と天然染料1 赤、黄系染料による糸または繊維の染色を行う。
- 14 演習：バナナ繊維と天然染料2 青、紫系染料による糸または繊維の染色を行う。
- 15 講義：製作技法史 布づくりのための技法とその特徴および変遷について概説する。
- 16 演習：編む1 基本的編み技法10種類の習得を目指す。
- 17 演習：編む2 編み技法の応用編を習得する。
- 18 演習：組む1 基本的組技法10種類の習得を目指す。
- 19 演習：組む2 組技法の応用編を習得する。
- 20 演習：織る1 織りの原組織3種の習得を目指す。
- 21 演習：織る2 織技法の応用編を習得する。
- 22 演習：編む・組む・織るのまとめ 「編む」「組む」「織る」の各技法のサンプルを整理しファイリングを行う。
- 23 作品制作：構想 習得した素材と技法を応用して作品を制作するための構想を練る。
- 24 作品制作：計画 作品を制作するための計画を立てる。
- 25 作品制作：素材と技法の応用 習得した素材と技法の何をどのように活用するかを確認する。
- 26 作品制作：中間プレゼンテーション 作品制作の中間プレゼンテーションを一人三分以内で行う。
- 27 作品制作：制作とディスカッション 作品制作を行う中で、コンセプト、素材、技法について話し合う。
- 28 作品制作：制作とディスカッション 作品制作を行う中で、コンセプト、素材、技法について話し合う。
- 29 作品プレゼンテーションと評価 作品プレゼンテーションを一人三分以内で行い、評価を求める。
- 30 展示会への出品とまとめ 展示会へ作品を出品し、一般公開したうえで、成果についてまとめる。

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席及び作品による総合評価

【テキスト】

【参考文献】